

資料編

計画の策定経緯

年月日	内容
2024年11月5日	第1回大和郡山市第5次総合計画（前期基本計画）策定委員会 ①第5次総合計画策定方針について ②アンケート調査について ③ワークショップの実施にあたって ④後期基本計画の点検・評価について（依頼）
2024年12月6日～ 2024年12月25日	新たな総合計画づくりのための市民意識調査の実施 市内に居住する20歳以上の男女から3,500人を無作為抽出 配布数3,500人 有効回収数1,366件 有効回収率39.0%
2025年1月25日	第1回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ ○ワークショップの目的 ○総合計画と大和郡山市の状況 ○グループワーク テーマ 大和郡山市の「いいところ」と「頑張った方がいいところ」 ○グループ発表
2025年2月2日	第2回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ ○第1回目の振り返り ○グループワーク テーマ 大和郡山市の未来の姿 ○グループ発表
2025年2月8日	第3回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ ○第2回目の振り返り ○グループワーク テーマ ミライの姿の実現に向け、大和郡山市みんなでできること ○グループ発表
2025年3月24日	第2回大和郡山市第5次総合計画（前期基本計画）策定委員会 ①大和郡山市第5次総合計画基本構想・前期基本計画体系案について ②将来像について ③人口シミュレーションについて
2025年8月8日	第3回大和郡山市第5次総合計画（前期基本計画）策定委員会 ①大和郡山市第5次総合計画 基本構想（案）について ②大和郡山市第5次総合計画 前期基本計画（案）について
2025年8月19日	第1回大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 ①大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について ②地方創生関連交付金事業の検証について ③大和郡山市第5次総合計画基本構想（案）について

年月日	内容
2025年11月10日～ 2025年11月21日	大和郡山市第5次総合計画基本構想（案）に対するパブリックコメントの実施
2025年12月1日	第2回大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 ①第3期大和郡山市総合戦略（案）について
2025年12月17日	大和郡山市第5次総合計画基本構想を市議会定例会へ提案・議決
2025年12月23日	第2回大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 ①第3期大和郡山市総合戦略（案）について
2026年1月9日～ 2026年1月30日	大和郡山市第5次総合計画前期基本計画（案）に対するパブリックコメントの実施

ワークショップの概要

大和郡山市第5次総合計画（基本構想・前期基本計画）の策定にあたり、大和郡山市がめざすべき姿（まちの将来像）や今後のまちづくりに対する意見やアイデアをいただくことを目的に実施しました。

令和6年12月に実施した市民アンケート調査の際、ワークショップの開催案内を同封し、参加を募るとともに、市ホームページにワークショップ開催に関する記事を掲載し、参加の募集を図りました。

年月日	テーマ
第1回 2025年1月25日	第1回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップの目的 ○総合計画と大和郡山市の状況 ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> テーマ 大和郡山市の「いいところ」と「頑張ったほうがいいところ」 ○グループ発表
第2回 2025年2月2日	第2回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ○第1回目の振り返り ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> テーマ 大和郡山市の未来の姿 ○グループ発表
第3回 2025年2月8日	第3回大和郡山市第5次総合計画策定に向けたワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ○第2回目の振り返り ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> テーマ 未来の姿の実現に向け、大和郡山市みんなのできること ○グループ発表

参加者氏名
大中 拓也
木村 元
清水 智弥
杉本 さよ美
馬場 麻紀
堀江 和敏
松本 ふみよ
八木 孝文

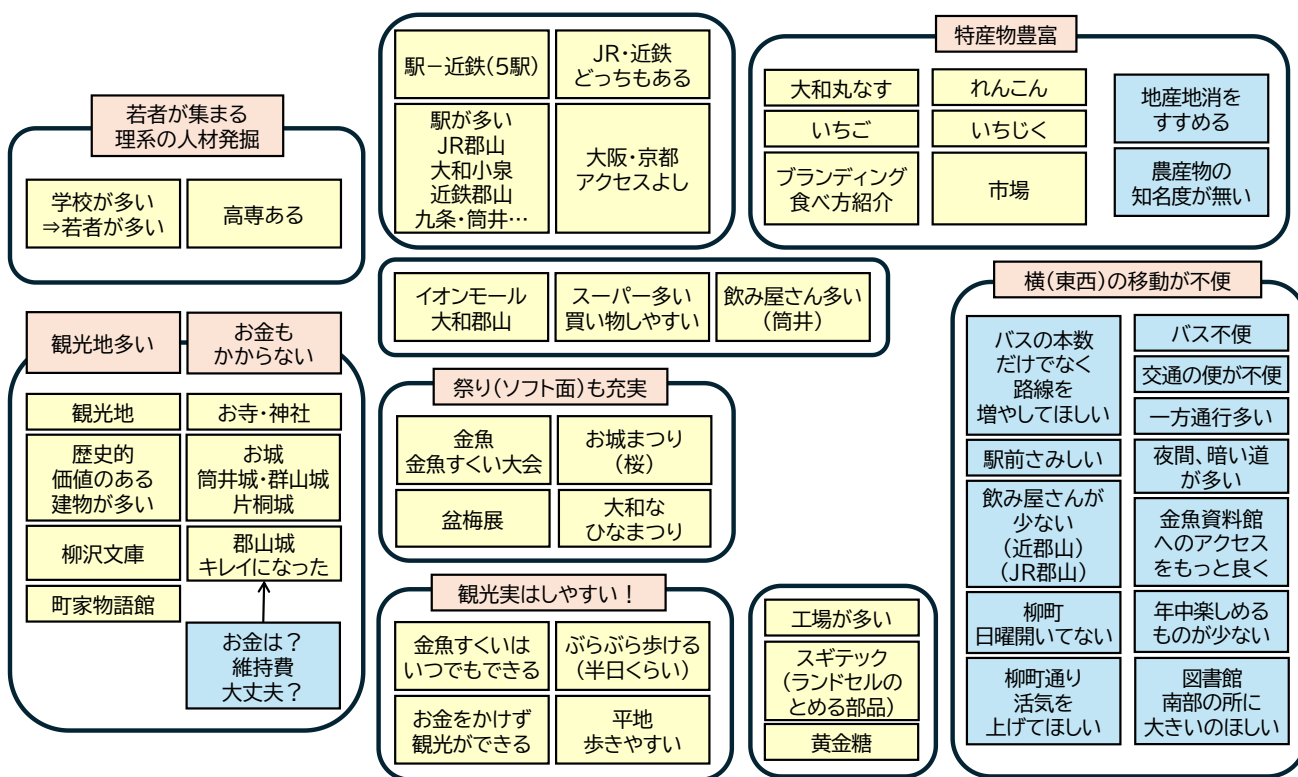
（五十音順・敬称略）



第1回 大和郡山市の「いいところ」と「頑張ったほうがいいところ」

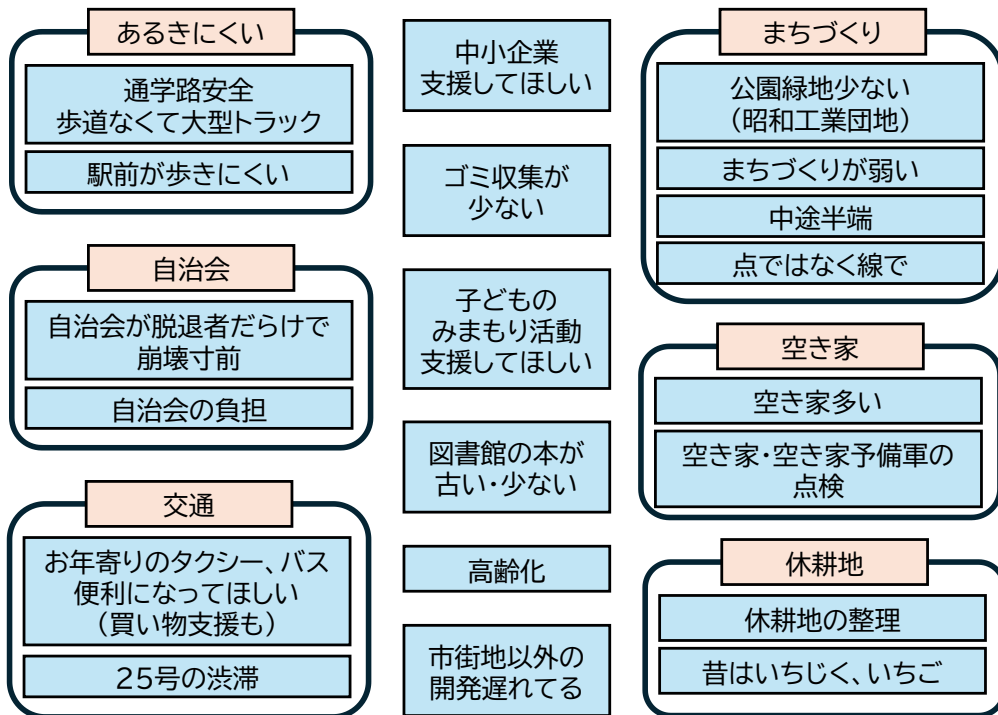
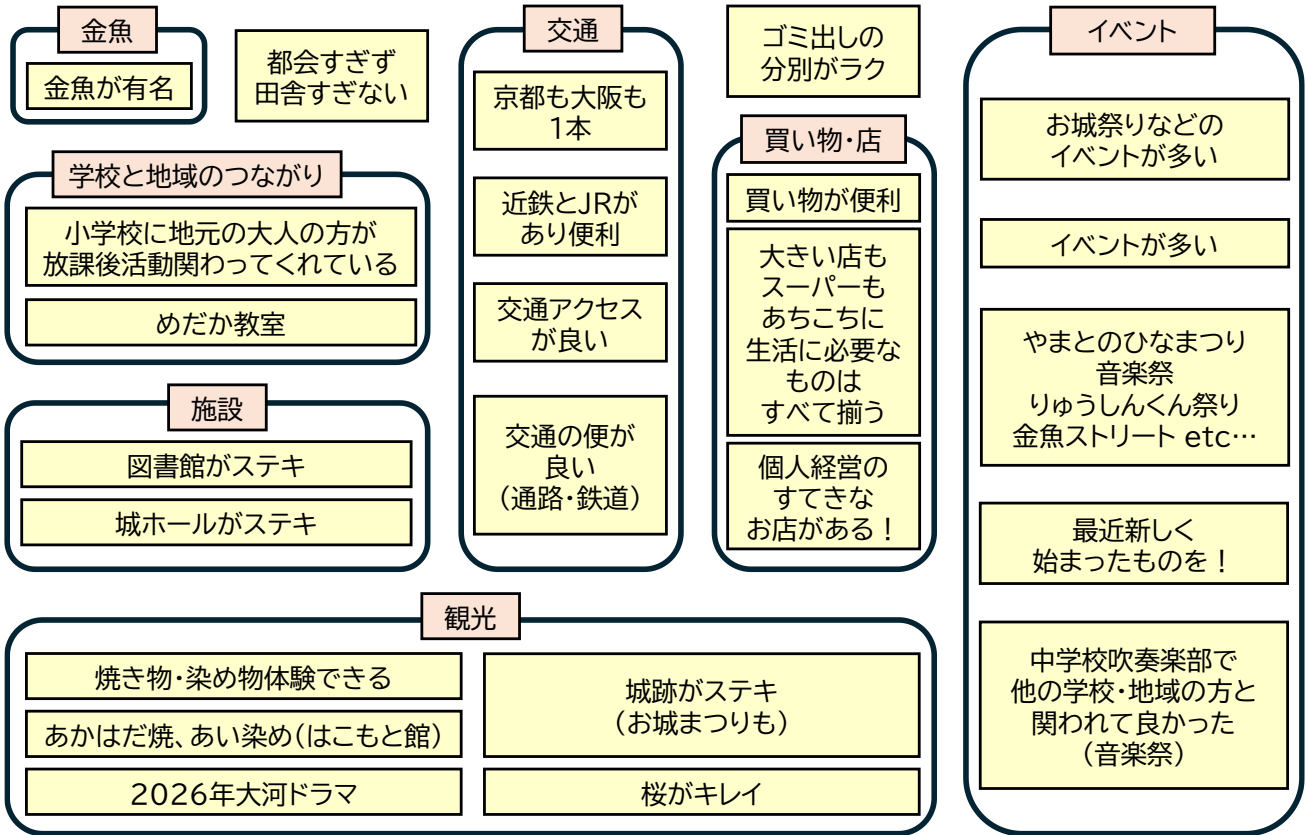
A 班

…いいところ
 …頑張ったほうがいいところ



B 班

…いいところ
 …頑張った方がいいところ



第3回 未来の姿の実現に向け、大和郡山市みんなのできること

ちょうどええ町 よくできた町

※カラーボックスは主表題、白黒ボックスは取り組みを示しており、主表題に関連する取り組みには同色の●をつけています。

都市計画			
スマートCity化 インフラ 交通・電気・ガス・水道・ゴミ・図書館etc.)	郡山インター近辺の 工場規制緩和	年代にかかわらず 交流できる場	憩い
	農地・住宅地の集約	屋外で屋根があり、 休憩できる場所	子育てしやすい 制度、インフラ
豊かさ		図書館、移動図書 南部公民館の近くに 建設してほしい	東屋等の管理強化 (市民による当番制)
ベンチャー企業に 起業しやすい設備	子どもあそび場 遊具	行政公園を 計画的に作る	市内を移動しやすく (ボランティア、自動運転)
バランスよいまち 産業振興(農業・工業・商業) 全世代・全エリア 観光PR(市外への魅力発信)	自然保護 ヤマトタチバナ ゼニタナゴ? 矢田山の生き物	子連れの家族が安心 して通れるような道 路(歩道)の整備	交通アクセス 駅前・城下町と市内全域を つなぐ
生きがい	働きやすさ 働きがい	全世代にとって 住みやすい町づくり	歩きやすいまち 徒歩・自転車・車・バイク・バ ス・電車が共存 ○安全確保 ○スペース確保
高齢者の生きがいの場所	高齢者向けコミュ ニティバス	交通 東西の路線	夜道を明るく
公園の維持管理 シルバー人材?	子どもや高齢者の 安心安全、交通、 治安	JR郡山 ↓ 近鉄郡山連携	通学路 安心安全に登校できる
シルバー人材高齢者の方の スキル・道具の活用	子どもの教育 (次世代)と支援	若い力	安全
お金(税金)を確保 税収アップ!ふるさと納税		近鉄郡山近辺の 観光整備	便利
知らせる		行政・ 市民などの 連携 ワーク ショップ など	知る
音声 ラジオ	ライブ 配信	市内外に 向けての 情報発信 UP	よりどころ
マンガ	SNS	発信力を 高める 地域内・ 外どち らも	市街地(?)以外を知る
城と城下町の 保存、観光に 力を入れる	ランドマークの 設置		大和郡山市が好きと言える(迷わず)
(タイプ) 動画でも良いが二次元コードから一 目でわかる資料	ランドマークの 設置		市内コンビニに広報誌等の設置
二次元コード (情報のデジタ ル化)	金魚をつかった 飾りを町中に置 く(金魚ミュー ジウム)		市民団体(プラットフォーム) 意見吸い上げ隊 行政だけではなく 民間の市総合計画(協働)
語り部 発信ツール	イベント 市民全員がイベ ント仕掛け人		大和郡山市を知る、 白地図に色をつける感じ
“学校”の 有効活用	マップが多い 統一する(?)		
多言語対応 (若い力で)	あらゆるマップ をWEBで公開 (とりまとめ)		
学生の長期間の(1か月とか)職業体験の機会の創出、 市内産業知るチャンス、若者に魅力			

大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱

(設置)

第1条 大和郡山市の人口ビジョン並びに総合戦略の策定及び推進にあたり、広く関係団体等の意見を聴くため、大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 総合戦略の策定に係る検討に関すること。
- (2) 総合戦略に掲げる施策の効果検証に関すること。

(組織)

第3条 推進会議は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 産業関係の団体から推薦された者
- (2) 教育機関から推薦された者
- (3) 金融機関から推薦された者
- (4) 労働関係機関から推薦された者
- (5) 住民で組織する団体から推薦された者
- (6) 副市長
- (7) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱した日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

(会長)

第4条 推進会議に会長を置く。

2 会長は、副市長をもって充てる。

3 会長は、推進会議を代表し、会務を総理する。

(会議)

第5条 推進会議の会議は、会長が招集し、その議長となる。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、総務部企画政策課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年5月8日から施行する。

大和郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

区分	役職	所属	氏名
住民代表	委員	大和郡山市自治連合会 会長	植村 俊博
住民代表	委員	郡山女性ネットワーク 会長	亀岡 静代
産業界	委員	大和郡山市商工会 副会長	吉川 恵司
産業界	委員	昭和工業団地協議会 会長	川端 章代
行政機関	会長	大和郡山市 副市長	中尾 誠人
教育機関	委員	奈良工業高等専門学校 産学協働・地域創生研究センター長	山田 裕久
金融機関	委員	奈良信用金庫 理事長	菊澤 竜一
金融機関	委員	南都銀行 郡山支店 次長	松井 智広
労働団体	委員	連合奈良西和地域協議会 事務局長	木村 和弘

※順不同、令和7年12月時点

用語解説

あ

ICT

Information & Communications Technology の略で、情報通信技術をいいます。

アクセシビリティ

年齢や障害の有無に関わらず、誰でも必要な情報に簡単にたどり着け、利用できることをいいます。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

Advance Care Planning。人生の最終段階において、本人の意思に沿った医療・ケアが行われるよう、医療やケアについて繰り返し話し合う取り組みをいいます。

ASU

本市では、市内小・中学校に在籍する不登校児童生徒の主体的な活動を大切にしながら、社会性や相互の人間関係を築いていく力を育み、社会的自立を促す教育を推進するため、郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」を設置しています。

アンコンシャス・バイアス

過去の経験や見聞きした事柄から、自分自身が気付かないまま無意識の偏見や思い込みによって、偏ったモノの見方をしてしまうこと。

インクルーシブ教育

人間の多様性の尊重等を強化し、障害のある人が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的のもと、障害のある人と障害のない人がともに学ぶ仕組みをいいます。

SNS

Social Networking Service の略で、インターネット上の交流を通じて、社会のネットワークを構築するサービスをいいます。

NPO

Nonprofit Organization の略で、非営利組織をいい、営利を目的とせず、福祉・まちづくり・環境保全などの社会貢献活動を行う民間組織の総称です。

さ

3R

「ごみを出さない」「一度使って不要になった製品や部品を再び使う」「出たごみはリサイクルする」という廃棄物処理やリサイクルの優先順位のことをいいます。「リデュース(Reduce=ごみの発生抑制)」「リユース(Reuse=再使用)」「リサイクル(Recycle=再資源化)」の頭文字を取り、「3R」と呼ばれます。

シティプロモーション

地域の魅力を創造し、地域の内外へと広めることで地域イメージをブランド化し、観光客や転入者を増やすことをいいます。

シビックプライド

市民のまち(大和郡山市)に対する誇りや愛着、そして地域社会に貢献しようとする意識のことをいいます。

た

ダブルケア

親の介護と子育てを同時期にする状態のことをいいます。

DX(デジタル・トランスフォーメーション)

ビッグデータやモビリティ、クラウドなどの新しいデジタル技術を活用し、市場や利用者のニーズを踏まえ、組織の変革も伴いながら、新しいサービスやビジネスモデルを創出し、競争上の優位性を確立するような取り組みを指す概念。業務の単なるデジタル化とは概念が異なる。

は

ハザードマップ

万一の水害に備え、避難場所や避難経路、予測される浸水深、緊急連絡先、水害時の心得などを書き込んだ地図のことをいいます。

8050(はちまるごーまる)

ひきこもりの子を持つ家庭が高齢化し、50歳代の中高年のひきこもりの子を80歳代の後期高齢者の親が面倒をみるケースが増えているという社会問題のことをいいます。

バリアフリー

高齢者・障害のある人等が社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)することで、物理的・社会的・制度的・心理的な障壁、情報面での障壁など、すべての障壁を除去するという考え方のことをいいます。

PPP

Public Private Partnershipの略で、公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）と呼びます。PPPの中には、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、公設民営（DBO）方式、さらに包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング等も含まれます。

フレイル

年齢とともに心身の活力（筋力や認知機能など）が低下して、要介護状態に近づくことをいい、対策をとれば、健康な状態に戻ることも可能です。

わ

ワークショップ

参加者が自発的に作業や発言を行える環境の中、進行役を中心に、参加者全員が体験する形で運営される話し合いの形態をいいます。

ワーク・ライフ・バランス

仕事にやりがいや充実感を感じ、責任を果たしながら、家庭や地域生活においても、子育てや介護など、人生の各段階に応じて多様な働き方を実現し、個々の生活を充実させることをいう。